



株式会社井上総合印刷

H・UV搭載リスロンGX40RPの導入により
顧客の課題を解決し、感動をも生む企業、づくりにさらに邁進。



代表取締役社長
井上 加容子氏
「栃木に初導入で、皆さんに『こんな印刷機械もあるんだ』と魅力を感じてもらいたいです」

栃木県宇都宮市に本社と2つの印刷工場、製本センターを有する株式会社井上総合印刷は、1966年の創業以来、総合印刷会社として地域に貢献してきた。企画・編集・デザインから印刷・製本まで一貫した生産体制がもたらす高い品質を支えているのが、積極的な設備投資によるお客様の課題解決への取り組みだ。H・UVの機能の高さに注目し、2013年にH・UV機を初導入。さらに昨年11月にH・UV搭載リスロンGX40RP(菊全判両面8色オフセット枚葉印刷機)を導入した。その狙いや導入効果について、井上加容子社長と生産部の横田浩一第2印刷課課長にお聞きした。

単なる地域貢献ではなく CSVへの取り組みを開始

地域の総合印刷会社として成長してきた井上総合印刷は、地元へ根差した企業を目指し、地域貢献を視野に入れた経営を行っている。同社のCSR活動は高く評価されており、創業40周年記念事業として開始した地域情報季刊誌「しもつけの心」の発行をきっかけに、宇都宮まちづくり貢献企業に認定された。現在はさらに発展させ、CSV(共通価値の創造)活動に取り組んでいる。「地域貢献を推

進することでビジネスが生まれれば、継続・発展につながります」と語る井上社長は昨年、市内にカフェをオープンさせた。

「宇都宮市は、街なかの空洞化という課題を抱えています。街の活性化に貢献する方法を考え、商店街の中心にある40年ほど使われていなかったビル1階と2階を改装し、カフェ&レンタルスペースを開きました。仲間が集まったり、花や料理の教室、イベントが開かれたり、企業の方が打ち合わせに使ったりと、人と情報が気軽に集まる場所にしました」と井上社長。本業

の印刷でも地域への貢献を考え、お客様の課題解決に役立ててきた。その一つが2013年のリスロンA37(A全判4色機)の導入から開始したH・UVへの取り組みだ。

「独自性が求められる中、より高い品質や特殊紙を使う仕事が増える予想し、H・UVを導入しました。これまでのドライダウニングや裏写り、コスレ、汚れなど多くのトラブルも解消されました。クリアファイルへの印刷もやってみたら、活用されるお客様が増え、高い評価をいただきました。印刷の立ち合いにいられたお客様にも『早いね』

『きれいだね』と紙面を触って感動していただきましたが、もっと速くていいものを作るにはどうしたらいいのか考え、両面機であるH・UV搭載リスロンGX40RP(菊全判両面8色オフセット枚葉印刷機)の導入を決めました」

リスロンGX40RPは 全ての面で安定性が高い

H・UVの使用感について、生産部の横田課長は「H・UVは乾燥というより硬化」と表現する。

「従来は光沢を出す目的ではなく、キズやコスレを目立たなくするためにPP加工を施していましたが、H・UVはコスレに強く、PP加工が必要ない案件が増えました。後加工にも良い効果が出ています。また、品質を特に重視するお客様の案件は、自然とH・UV機へと移行していきます」と評価、お客様の感触も良いと話す。さらに「リスロンGX40RPを一言でいうとストレスがない機械です。フィードストップがほとんどなく、印刷の濃度の安定感も抜群。



生産部 第2印刷課課長
横田 浩一氏
「導入の一番の理由は効率化ですが、それをもっと突き詰めていき、能率を上げていくのが現状のテーマです」

PQASの搭載で印刷始めから終わりまで色を維持できます。版交換はA・APCだから8版で1分20秒ほどと速い。刷り出しは今のところ50枚でスタートでき、全ての面で安定性が高いです。片面機から両面機になることで能率的には2・5倍の感覚があります」と、現場の変化を実感している。

K・サプライインキと KP・コネクトも同時採用

今回、同時にK・サプライインキ「KG-911」も採用した。横田課長は「さまざまなメーカーのインキをテストしました。水と油の関係性の具合がちょうど良く、色を調整する時にキールスポンスもすごく良い」と、使い勝手が良いとの感想。インキメーカーとの違いについて、「KOMORIは機械メーカーとして、インキ単体ではなく、機械とインキの両面から改善につなげていってほしい」と評価する。

KP・コネクトの採用について井上社長は「本社と離れた場所に工場と製本センターがあるため、印刷の状況が見えませんでした。その都度、電話で確認しなければならぬ状況でしたので、KP・コネクトは絶対に使えらると思っていました」と言う。実際に導入したところ「パソコンやモバイルを使って、どこからでもリアルタイムで、刷版側は進行状況を確認して対応でき、経営側は稼働状況を把握できます。経営と現場が一緒に」

「自分たち、お客様、地域の誰にとっても『いい会社になりたい』とみんな話しながらがんばっています。まだ始まったばかりでゴールは遠いですが、努力していきたいです」と語る井上社長。

印刷を通して体験を提供 お客様に感動を与える

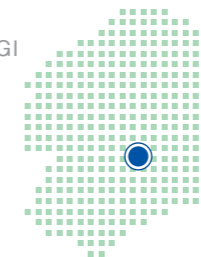
「現在はH・UVの速乾性を生かし、刷るタイミングをお客様に伝え、積極的に刷るのを見ていただいています。デザイナーや自費出版の方は、自分の作品が刷られていくのを見て、感動し、笑顔になって帰っていかれます」

井上総合印刷が作っているのは、地域のお客様への感動なのだ。



右：「KP・コネクトで、稼働率だけでなく、働き方の改善を目標とし、ジョブ内の停止時間や準備時間をよく見えています」と横田課長。
中：「インキメーカーではないインキを使うことは、当初は不安でしたが、相談に細かく対応してくれ、今では安心しています」と現場からの声。
左：62台(約1000ページの書籍1200部)を1台約10分、2日でこなしたリスロンGX40RP

TOCHIGI



本社 / 栃木県宇都宮市岩曾町1355
平出工場 / 栃木県宇都宮市平出工業団地29-5
http://www.inoue-gp.jp/
TEL / 028-661-4723



平出工場